

流山市立図書館の司書が選んだ

中学生におすすめの本

大人になるにつれて、考えることはたくさん増えていきます。

進路、家族、友達、部活、恋愛…など、何かに悩んでいる時、いきづまっている時、そうでなくても単純に色んなことを経験したい時、

本は君たちの世界を広げ、きっと力になってくれるはずです。

※□のなかの数字は本のラベルの数字です。本を探す手がかりに。

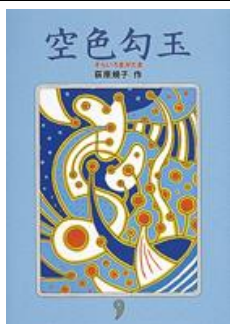


『大人を黙らせるインターネットの歩き方』

小木曾 健 / 著 筑摩書房 206p 007

「何時間もスマホばかり！他にもやることあるでしょ」なんて大人から言われたとき、どうする！？楽しく読めつつ、ネットの良さも怖さもわかってしまう本です。

SNS # 炎上回避 # ソースを見ろ # 読みやすい



『空色勾玉』 オ

荻原規子 / 作 徳間書店 368p

古代の日本「豊葦原」では、輝の大御神の双子の御子と闇の一族が激しく争っていた。その中で、闇の巫女姫である狭也は、輝の宮の神殿に囚われた少年雉羽矢と出会う…。

和風ファンタジー # 古事記 # 光と闇 # 恋



『クラバート』 943 / フロ

オトフリート・プロイスラー / 作 中村浩三 / 訳 偕成社 383p

夢の中でカラスのお告げを聞き、水車小屋に行ってみたクラバート。そこは魔法使いの親方が支配する世界で、職人見習いとして勤め始めたクラバートだが…。

ドイツ # 重厚ファンタジー # 少し不気味

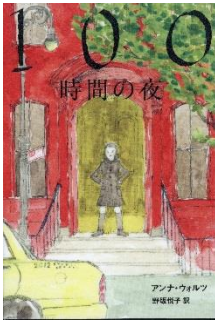


『光のうつつしえ 広島 ヒロシマ 広島』

913 / クツ 朽木祥 / 作 講談社 189p

「よく知っているとってる人のことでも知らないことが多い」—希未はお墓参りに来ている吉岡先生を見かける。普段飄々としていた先生からは想像がつかない、悲しい理由がそこに隠されていた。

原爆 # 戦争 # 残された人 # 忘れられない想い



『100時間の夜』 949 / ウオ

アンナ・ウォルツ / 作 野坂悦子 / 訳

フレーベル館 365p

オランダの14歳^{さい}エミリアは、父親のスキャンダルを苦にして、アメリカへ逃亡を図るのですが…。

#家出 #SNS炎上 #避難 #でも友情とか恋



『バッテリー』 ア

あさのあつこ / 作 佐藤真紀子 / 絵 教育画劇 243p

野球に対する情熱を燃やすものの、どことなく独りのピッチャー、原田巧^{はらだたくみ}は、引っ越し先で恵まれた体格のキャッチャー、永倉豪^{ながくらこう}に出会う。シリーズあり。

#野球 #天才 #誰にも負けたくない #仲間



『生きる』 E / オカ

谷川俊太郎 / 詩 岡本よしろう / 絵

福音館書店 44P

「生きているということ いま生きているということ」で始まる有名な詩を、夏の空気が伝わる絵と共に味わえます。 #生きること #考えたい #君に



『その時ぼくはパールハーバーにいた』 ソ

グレアム・ソールズベリー / 作 さくまゆみこ / 訳

徳間書店 323p

ハワイに住む日系人のぼくは時々^{りふじん}理不尽な思いをしつつ、それなりに楽しく過ごしていた。しかし、日本からの爆撃^{げき}が始まって…。 #真珠湾攻撃 #戦争のリアル



『鉄のしぶきがはねる』 マ

まはら三桃 / 著 講談社 237p

心^{しん}は、工業高校に通う女の子。工作機械を使って鉄や木でものをつくる部活、「もの研」なんて、入るつもりなかったのに…。読後^{きわ}が爽やかな、熱い一冊。

#ものづくり #熱さ #青春 #恋 #大会

『注文をまちがえる料理店』 493.7 小国士朗 / 著 あさ出版 239p

「忘れちゃったけど、まちがえちゃったけど、まあいいか。」

ハンバーグを頼^{たの}んだけど、出てきたのはピザ！？認知症の方が接客^{せつきやく}をする、数日間限定で開店する「まちがえることを楽しむ」レストラン。ここで起きたさまざまなことや、開店するまでの出来事をつづります。実話。

#認知症 #てへぺろの輪 #あったかい #切ない